

講師紹介

1



studio-L 代表
山崎 亮

地域コミュニティ

2



大阪ぐりぐりマルシェ運営
山内 美陽子

6次産業化

3



株式会社オーガニックワン 代表
鈴木 健太郎

体験農園

4



料理開拓人
堀田 裕介

食

5



子ども食育マイスター
福本 理恵

教育

お申し込み

必要事項を記入し、メールもしくはFAXでお申し込みください。こちらからのご返信をもって受付完了となります。

締 め 切 り	1月18日(日)18:00まで
定 員	約10名(参加者多数の場合は、先着順 となります)
対 象	大阪市内の農業者で、以下のいずれかの条件にあてはまる方 ・ 高度な農業技術や農業経営を行っている ・ 農業生産や農産物販売にかかる独自の取組みを行っている ・ 若手農業後継者(原則として50歳未満の方)で、今後市内で農業を行っていく意欲がある
お問い合わせ	特定非営利活動法人Co.to.hana メール：info@cotohana.jp 電話：06-6654-8830

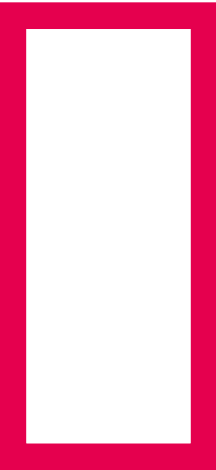
FAX申し込み書【06-6654-8830】

ふりがな 氏 名		男 ・ 女	歳
住 所			
電 話 番 号		携 帯 電 話	
メー ル		農 業 就 業 年 数 年	
参加する講座 1/21 2/4 2/18 3/4 3/11 ※できるだけ全ての回にご参加ください			
参加の動機 「なにわの農業塾」をお知りになったきっかけ、参加しようと思った理由など			
農業経営状況 販売品目や主な販売先、耕作規模、その他農に関する取り組みなど			

ご提供いただいた個人情報は、本事業以外の目的では一切使用いたしません。

農
業

+



大阪発！新しい農のカタチ
なにわの農業塾

日程 | 2015年 1/21(水)、2/4(水)、2/18(水)、3/4(水)、3/11(水)
場所 | 谷町空庭 (大阪市中央区常盤町1-1-8 6F 地下鉄谷町線 谷町4丁目駅 より徒歩3分)
時間 | 14:00~16:00(5回とも) 参加費 | 無料 主催 | 大阪市 企画・運営 | 特定非営利活動法人Co.to.hana

農業 +

5つのテーマから市内農業の可能性を探る！

大阪市内の農業は、消費者との距離が近いという特徴がある一方で、地価が高い、まとまった農地が確保しづらいといった課題もあり、農作物の生産だけでは農業経営が難しいという現状があります。それを乗り越えるためにも、今、市内農業の新しい「農のカタチ」が求められています。なにわの農業塾では、様々なカタチで農に携わる専門家から、活動のノウハウや考え方を5回の連続講座から学びます。そして参加者同士で議論を深め、大阪発の新しい農業の可能性を探ります。

+ 地域コミュニティ

市内農業では多角的な農業経営が求められるため、様々な分野の専門家や地域住民と連携し、新しい価値を生み出すことが重要です。また、近年農業への注目が高まる一方、市内で活動する農家と市民が交流を持つ機会が少ないという現状があります。そこで地域をつなぐキーワードとして「農」を掲げたコミュニティ農園「北加賀屋みんなのうえん」をはじめ、全国各地でコミュニティづくりを実践する山崎さんから、コミュニティデザインの視点から市内農業の可能性についてお話しいたします。



山崎 亮

studio-代表、東北芸術工科大学教授。京都造形芸術大学教授。地域の課題を地域に住む人たちが解決するためのコミュニティデザインに携わる。まちづくりのワークショップ、住民参加型の総合計画づくり、建築やランドスケープのデザイン、市民参加型のパークマネジメントなどに関するプロジェクトが多い。

studio-代表 コミュニティデザイナー

1 1/21



2 2/4

山内 美陽子

6次産業化プランナー
大阪ぐりぐりマルシェ運営



「まちとむらをつなぐ」都会で里山」をコンセプトに、農家さんと都市に住む人々をつなげるさまざまな仕掛けやマルシェを運営。自宅の一部を「谷町空庭」として開放し、屋上の菜園ではみんなで農作業を楽しむ「空庭畑部」がある。また農家さんの「こうしたい」をかなえる、6次産業化プランナーとしても活動中。

+ 6次産業化

作物価格の低迷・販路の不足などから、作物の価値を高めるために6次産業化が全国的にも推進されています。これは、農地が狭い大阪市内においても重要です。また、最近では大阪市の街なかで多くのマルシェイベントが行われています。大阪・難波で生産者と消費者をつなぐ「大阪ぐりぐりマルシェ」を運営する山内さんに、大阪市内における6次産業化の動きや可能性についてお話しいたします。



+ 体験農園

大阪市内農業では代々の農地の保全や、安定した農業経営が大きなテーマとなっています。一方で都市住民にとって、「暮らしに農を取り入れたい」というニーズが高まりつつあり、休日に市外まで出かけて農を体験する人が増えています。そのため都市に暮らしながら農のある暮らしを味わえる「体験農園」が注目されています。土地活用のアイデアとして「体験農園」の運営・コンサルティングを行う鈴木さんから、市内農業における体験農園の可能性についてお話しいたします。



堀田 裕介

料理開拓人

「食えることは生きること
生きることは暮らすこと」
自ら生産者の元へ赴き、生産者の暮らしを知り、寄り添いながら食の本質を生活者へ届ける料理開拓人。食の安心・安全だけでなく、美味しく楽しいことを自らのアートの感性を活かした「foodscape」で表現し、五感を通じて食に向き合う空間を創出するなど、本質を伝える活動の開拓は続く。

4 3/4

東日本大震災や産地偽装の影響で、食の安心・安全が注目され、生産者を知り、顔の見える野菜を買いたいという消費者のニーズが高まっています。しかし現状は、当たり前のように全国どここの野菜でも安く手に入るため、地元の農家のことを地元の消費者が知る機会はありません。日本各地の想いをもった生産者と、消費者を「食」を通してつなぐ活動を続ける料理開拓人の堀田さんに、食の視点からみた市内農業の可能性についてお話しいたします。

+ 教育



スーパーの食べ物にしか触れる機会のない都市の子どもたちは、野菜がどうやって作られるのかを体感する機会がありません。そんな中、子どもたちの心と体を育む「農を通した食育」が重要になってきています。子どもたちが農業に関心をもつことは、後継者不足という深刻な課題を解決するためにも重要になってきます。最終回は、大阪や東京を拠点に「農」をテーマに子どもの食育に取り組む福本さんに、市内農業が未来のために果たすことができる可能性についてお話しいたします。



福本 理恵

東京大学
子ども食育マイスター

1981年姫路生まれ。兵庫教育大学、広島大学大学院修士課程。その後、東京大学先端科学技術研究センターの交流研究員を経て、東京大学大学院博士課程に進学。土に触れ野菜を育てることや、豊かな食を五感を使って感じることを通した子どもの心の教育をテーマに、「種から育てる子ども料理教室」を企画・主宰。先端科学技術研究センターで、「異才発掘プロジェクト・ROCKE」のカリキュラムを開発中。

5 3/11



鈴木 健太郎

株式会社オーガニックワン代表

1973年東京生まれ。東京農業大学卒業後、山梨県庁に農業改良普及員として入庁。その後外資系農業メーカーに転職。2014年5月に株式会社オーガニックワンを設立し、初めての方でも気軽に始められる街中の農業体験サービスの提供を始める。

3 2/18

